

才一八師団病馬廠部隊略歴

才一八師団病馬廠長

安梅壽永

年月日	概	要
田面 九、十	才一八師団病馬廠編成下令	
自 九、八	編成下令 編成完結	
至 九、八	南支、玄東附近警備	
自 九、八	南支、玄東附近警備	
至 五、三、八	南支、翁天賽陽作戦参加	
自 五、三、九	南支、玄東附近警備	
至 五、三、七	編成に転進	
自 五、四、十	北部編成作戦に参加中 兵一戦激死	
至 五、六、十	北部編成方面警備中 下士官一 公傷により入院 田南より内地還送爾後	
自 五、六、十	消息不明	

556

自六十一	北部緬甸附近	ウ号作戦及九号作戦参加中	兵一戦病死	兵一公傷により入院	昭南へ後送爾後消息不明
至五 四六	北部緬甸附近	ハ号作戦参加中	下士官兵六	戦死	兵一戦病死
自 四五	北部緬甸附近	断作戦参加中	将校一	下士官	兵五戦死
自 七六	ニニ戦病死	兵一戦病により入院	昭南へ後送爾後消息不明		
至三 二六	トシヤン州	トマンダレー沿線方面	断作戦	トシタン作戦	聖作戦
自 三一	参加中	下士官ニ戦死	下士官ニ戦病死		
至 八四	大東亞戦争開戦以来の戦死者	将校一	下士官	兵一三	
至 八四	戦病死者	下士官	兵ニ		
	消息不明者	下士官	兵三		
歴代部隊長名					
	獣医大尉	小野 正	獣医中尉	佐保 守 登	
同	同	檀山 勉	獣医少佐	安 寿 壽 永	
同	仲田 包 著				

2557

2265

オ一八師団防液給水部部隊行動
 (オ一〇七一六部隊)

年月日	概要
昭天、主、 自、主、	オ十一防液給水部(オ一〇七一六)自、主、日、昭和十三年、留守担任部隊、輸重兵オ一隊(隊)
至、一、 自、二、	滿成 南支、玄東附近にありて作戦参加並に警備 ンマレーに作戦参加
至、五、 自、六、	南部、北部、ビルマに作戦参加
至、八、 四、三、	ンタウンゲール附近に於て、北部シャン州警備並にンマイミョに於て、北部ビルマに防征作戦 軍令陸甲オ二四号に依り、オ十一防液給水部復帰、オ十八師団防液給水部編成完了 オ十八師団防液給水部(滿成年月日、昭和十八年四月三十日、留守担任部隊、西部五〇部隊)

~557~

6085

2267

年 月 日	概 要
自八 至九 九	「メイミヨ」にあり、北部「ビルマ」防衛作戦
自九 至十 九	「メイミヨ」より「ミツケ」ナレに移駐 同地において「ウ」号作戦 参加
自十 至十 七	「フリーコン」並に「カマイン」附近に於て、「ウ」号及「ハ」号作戦参加
自十 至十 七	「カマイン」附近より「バーモ」東「ナムカン」に移駐 断（「一」「三」 作戦参加）
自十 至十 七	「ナムカン」―「モンミット」移動
自十 至十 七	軍令陸甲「一」四〇号に依り「一」八師団防衛給水部復帰 「一」八師団司令部 防衛給水班編成完結
自十 至十 七	「一」八師団司令部防衛給水班（編成年月日 昭和十九年十二月十七日） 留守担任部隊 久留米師団司令部（ 「モンミット」附近に於て「三」期断作戦

1560r

2268

自 三、 二	至 五	自 五	至 八	自 八	至 九	自 九	至 三、 二	自 二、 二	至 六	三、 六 三	七、 十
<p>「メイクテラレ」「トングール」「シッタニ」に在リテ 「シヤン州」</p>		<p>「マンダール」沿線、克作戦参加 「シッタニ」附近に於て、「シッタニ」作戦</p>		<p>終戦「タトニ」県「チャイト」集結</p>		<p>パヤジー收容所に收容</p>		<p>「ラングーニ」レ「ユカイン」レ收容所に收容</p>		<p>「ラングーニ」港出港 宇品上陸復員完結</p>	

561

2269

才四九師団司令部略歴

才四九師団司令部 狼才一八七〇一部隊

陸軍中将 竹原 三郎

年月日	概	要
田元 一、五	軍令陸甲才ニ号に依り、才四九師団臨時編成下令	
二、七	才四九師団臨時編成完結	
五、三	軍令陸甲才五九号に依り、臨時動員下令	
六、十	才一次動員完結	
六、天	才二次動員完結	
六、六	龜山出発	
六、三	金山港出発	
七、五	昭南上陸 泰緬国境通過	
八、三	緬甸国コバグール果コバグール署	
自元 八、三	コキヤワタンに附近の警備	
至 三、三		
自三 一、一	盤作戦 コメイクテラに附近の戦斗に参加	
至 四、九		

必 外 ビルマ

~562~

2270

年月日	概	要
自 四、十	克作戦に参加	
至 五、三	整作戦に参加	
自 六、一	終戦	
至 八、四	ドインゼイクト	ゴムト林に集結
九、九	パビニト連絡所要員ヒシク	参謀以下一三名を派遣
一、三	宿營地移動のため	ゴム林出務 トゼマトエトに移動 同地集結
一、三〇	集結地移動のため	トゼマトエト出務 トドゥンレ トシッタレ トワシ
二、八	を経る	
二、三	トバヤジトに集結	
四、三	トバヤジト出務	トミンガランドンレ集結
六、九	トミンガランドンレ出務	
六、	トトングイト集結	

2563n

2271

歩兵第一〇六連隊略歴

歩兵第一〇六連隊長代理

斎藤 敏雄

年月日	概	要
五月五	軍令陸甲才五九号臨時動員総令	
六三	才一次動員完結	
六五	才二次動員完結	
六元	竜山出発	
七三	釜山港出帆	
七元	昭南港上陸	
七六	昭南港出発	
八二	仏印西貢着	
八三	仏印茶園地へスバイダニチオ	
八八	盤谷着	
九五	盤谷出発	
九	泰緬河国境へナインガラヤへ通過	
九五	ビルマに国境を越えタニシ到着河地集結	
自 九六	断作戦へコバグール附近の警備へ参加	

564

889

2272

至	三三	盤作戦（キヤウタン附近の警備及「メーカーテラ」附近戦斗に参加）
自	一一	本作戦間「メーカーテラ」附近の戦斗に於て、戦死（戦傷死含む）将校六〇名、下士官、兵一ニニ五名、生死不明五七名、敵手に陥りぬるもの約六名あり
至	四九	あり
自	四十	克作戦に参加、本作戦間「シャービヨウ・ペーヤメセン・トング・タトン」向つて転進中に於て、戦死（戦傷死含む）将校二名、下士官兵一八一名
至	五三	生死不明者七二名、敵手に陥りたるもの約三一一名あり
自	六一	堅作戦に参加、本作戦間「タトン」附近並に「バプン」附近の警備中、戦死（戦傷死含む）将校二名、下士官、兵五一一名、生死不明三〇名あり
至	八四	「タトン」果「ドインゼー」に移動、同地集結
	八九	宿营地移動のため、「バグー」果「バヤジ」到着、同地集結
	三三	宿营地移動のため、「プローム」到着、同地集結
	三十三	宿营地移動のため、「プローム」出発、ラングン到着、同地集結
	五元	内地帰のため、英船「タルマ」により、「ラングン」出発
	七三	途中日本船待機のため、「シンガポール」上陸
	八一	内地帰カンのため、「シンガポール」出発
	八三	佐世保上陸、復員完了
	九六	

~565~

外
ブルマ

年 月 日	<p>概</p> <p>要</p>
	<p>歴代部隊長名</p> <p>代理</p> <p>陸軍大佐 十時和次</p> <p>陸軍少佐 斎藤敏雄</p> <p>部隊事情精通者</p> <p>住前</p> <p>兵庫縣養父郡大蔵村法道寺 陸軍文尉 森本義一</p> <p>兵庫縣城崎郡竹野村歌前 陸軍中尉 鈴木賢</p> <p>滋賀縣蒲生郡老蘇村東老山 陸軍准尉 小杉恭男</p> <p>滋賀縣大津市片原町六九 陸軍曹長 前畑一雄</p>

~566~

歩兵第一五三連隊部隊略歴
 第四九師団歩兵第一五三連隊

年月日	概	要
卯元 五三	歩兵第一五三連隊並に歩兵七九連隊補充隊臨時勤員下令	
六五	第二次勤員完結	
六三	第二次輸送部隊として、京城龜山出發（第一大隊欠）	
六二	釜山港出發	
六三	輸送船兼洋丸に依り、門司港出發	
七三	第四次輸送部隊として、第一大隊及補充中隊龜山出發	
七五	第四次輸送部隊輸送船は「ダーバン」丸、「ナカイナ」丸に依り、釜山港出發	
七六	第二次輸送部隊（主カ）、「サイゴン」上陸	
八八	茶福園境に通過	
八三	第四次輸送部隊「ダーベン」丸、「カムラン」灣沖にて沈没	
九二	「ビルマ」國、「タイトウ」県、「アランメウ」着、第一大隊……（不明）位置せしむ	

~567~

2275

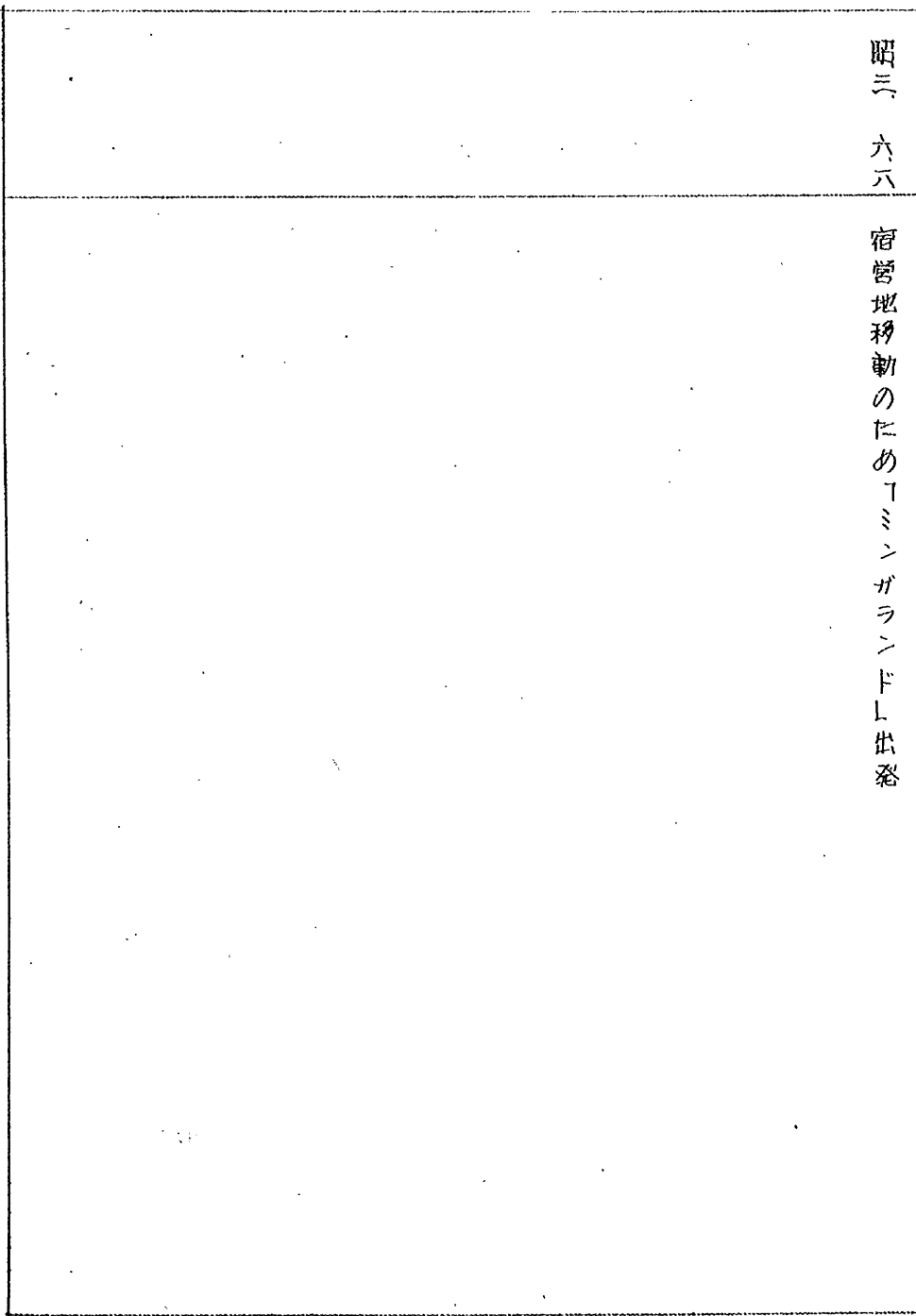
至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	至	自							
五三〇	一五	四三〇	二六	九六	九四	八一	七五	五十九	四八	四九	二九	二五	二九	二八	二八	二八	九三	九三	九三							
中村中尉以下三〇名	「ビリン」に派けん	宿营地移動のため	「パヤジ」出発	「ミンガランド」到着	同地集結	「タトン」果	「ドイン」ゼレ附近に移駐	同地集結	「パヤジ」到着	同地集結	「イラワジ」河渡河	「トング」南突破作戦に参加	「パコック」果	「ガンドワイン」出発	「エナン」シヤン北方地区の作戦に参加	「連隊長 林大佐」祭参謀長として	「転出新連隊長 武田中佐」着任	「比島」マニラ沖にて	「輸送船」沈没	「オ四次輸送部隊」へ	「オ一大隊本部」	「一中」	「一機中」	「二分の一」	「一大隊砲小队」	「オ十一管区防衛」に従事

概

要

568

昭三六六の皮フィルム



昭三六六
宿営地移動のため「ミンガランド」出発

~5/19~

昭三六六

2277

歩兵第168連隊部隊略歴

第49師団 歩兵第168聯隊

年月日	概	要
昭和五十七年六月十六日	勅令陸甲第59号に依り 歩兵第168聯隊臨時勅令下命	
昭和五十七年六月十六日	勅令下命	
昭和五十七年六月十六日	屯營出務	
昭和五十七年六月十六日	釜山港出港	
昭和五十七年六月十六日	昭南港上陸	
昭和五十七年六月十六日	泰緬國境通過	
昭和五十七年六月十六日	断才一期作戰参加	
昭和五十七年六月十六日	断才二期作戰参加	
昭和五十七年六月十六日	断才三期作戰参加	

570~

2278

年月日	概	要
自 三 二 三	艦作戦参加	
至 四 九		
自 四 十	艦作戦参加	
至 五 三		
自 六 一	艦作戦参加	
至 八 五		
三 六 六	モールメン港出港	
七 七 五	八竹藩上陸	
七 二 五	復員完結	

~571~

騎兵第四九聯隊略歴

年月日	概	要
四九 一五	騎兵第四九聯隊臨時編成下令	
二七	編成完結	
六八	臨時動員下令	
六三	第一次動員完結	
六五	第二次動員完結	
七三	也留出發	
九三	比律賓共和國マニラ港上陸	
七九	第一中隊 一四二名 釜山港より「緬甸」に海路介進航行中 仏領印渡支那「カムラン」沖に於て 將校以下 三一名戦死(海没)す	
十元	第二中隊 將校以下 一三七名「マニラ」港外に於て 雷撃に依り 戦死(海没)せしも 其後の連絡不能なるため 詳細不明なり	
土三	昭南港上陸	
五三〇	緬甸に進駐 爾後終戦時まで 緬甸作戦に参加	
	編成裝備並指揮隷屬關係及其の変遷の概要	

4720

至 八四	自 六一	至 五三	自 四九	至 四八	自 三二	至 三〇	自 二五
堅作戦参加	堅作戦参加	克作戦参加	克作戦参加	盤作戦（メーカーラ附近の戦斗）参加	盤作戦（メーカーラ附近の戦斗）参加	断作戦（ベグー附近、警備）に参加	参加せる主要なる作戦（戦斗） 参加せる主要なる作戦（戦斗） 参加せる主要なる作戦（戦斗） 参加せる主要なる作戦（戦斗） 参加せる主要なる作戦（戦斗） 参加せる主要なる作戦（戦斗） 参加せる主要なる作戦（戦斗） 参加せる主要なる作戦（戦斗）

~573~

外のビルマ

年月日	概	要
昭三 九三 自 五三 至三 四十	<p>終戦より敏達までの行動 緬甸ヲタトンニ北方ゴム林集結 聯合軍に協力、バブナーピリン街道の道路工事に従事</p>	
四二五 六五 六三 七五	<p>「ムドン」に集結 敏達ため行動開始 「モールメン」出航 大竹到着</p>	
	<p>其の部隊の経厂中特異の認めらるる事項等 現地補充の予定に基き乗馬を、編成せず、内地港灣出發せしも現地補充無 かりため、全作戦間徒歩を以て、戦斗終せしこと 海軍のため、ヤ一中隊（約半数）ヤ一中隊の全部を消失し、本部及機関銃 中隊並ヤ一中隊の残部を以て、作戦せざるべからざることに 編成人員中、戦車、自動車等、操縦並に戦斗技術を有する将校以下を以て 鹵獲戦車、自動車の利用を努めること。 (師団命令に基き、臨時戦車隊を編成せしことあり)</p>	

574

工兵才四九联隊行動概略

年月日	概	要	摘要
昭五 三三六	西貢 船舶輸送中の処	三、天 西貢上陸	联隊本部及 器械小队
三三八	モールメン 鉄道輸送に依り	モールメン着	
三三九	モールメン	「テナセリウム」地区交通作業に従事	
三四〇			
三四一			
三四二			
三四三			
三四四			
三四五			
三四六			
三四七			
三四八			
三四九			
三五十			
三五一			
三五二			
三五三			
三五四			
三五五			
三五六			
三五七			
三五八			
三五九			
三六〇			
三六一			
三六二			
三六三			
三六四			
三六五			
三六六			
三六七			
三六八			
三六九			
三七〇			
三七一			
三七二			
三七三			
三七四			
三七五			
三七六			
三七七			
三七八			
三七九			
三八〇			
三八一			
三八二			
三八三			
三八四			
三八五			
三八六			
三八七			
三八八			
三八九			
三九〇			
三九一			
三九二			
三九三			
三九四			
三九五			
三九六			
三九七			
三九八			
三九九			
四〇〇			

~575~

年月日	摘要	摘要
昭元 八三 九三〇	仏印カムラン 船舶輸送中の処、仏印カムラン上陸 モールメンレ 鉄道輸送に依り、モールメンレ着 「モルメンレ」附近 「デナセリウム」地区交通作業に従事	チ一中隊
自 十〇 至 三四		
自 三五 至 三四	鉄道及自動車輸送に依り「メイクテラ」附近 戦斗に参加のため、聯隊本部に行動共にす	チ二中隊
至 三四 昭元 七九 八三	昭 船輸送中の処、昭船上陸 「プロム」 昭船より、鉄道輸送「モールメンレ」「ペグール」 を経て「プロム」着	小隊
自 八六 至 九五	「アマミヨウ」 歩兵チ一五三聯隊に配属、二〇、九五「タト ン」に於て原隊復帰	
自 九六 至 九六	聯隊本部と行動共にす	
昭元 七六 自 九三 至 三三	西 船輸送中の処、セニハ 西海上陸 腕 町 鉄道輸送中の処「モールメンレ」「ペグール」を経て 腕町着（八九三 茶通国境通過） 聯隊本部と行動共にす	チ三中隊

516

2284

の 概 要

第 四 九 師 団 通 信 隊 略 歴

部 隊 長 陸 軍 少 佐 宮 武 金 市

年 月 日	概 要
昭 和 二 年 六 月 九 日	編 成 完 結 緬 甸 に 派 遣 斬 作 戦 (チャ ウ タ ン) 附 近 の 警 備 (輸 送 中 海 没 兵 四 名 戦 死 兵 二 名 戦 病 死 兵 三 名)
自 昭 和 二 年 六 月 一 日	盤 作 戦 (メ ー ク テ ー ラ) 附 近 戦 死 下 士 官 二 名 兵 一 名 生 死 不 明 下 士 官 三 名 兵 六 名
自 昭 和 二 年 六 月 四 日	克 作 戦 (カ ン タ ン) 附 近 戦 進 中 將 校 戦 死 二 名 兵 一 名 生 死 不 明 下 士 官 二 名 兵 三 名 戦 病 死 兵 四 名 捕 虜 一 名
自 昭 和 二 年 六 月 五 日	盜 作 戦 (タ ト ン) 附 近 の 警 備 中 終 戦 戦 病 死 兵 七 名
自 昭 和 二 年 六 月 六 日	歴 代 部 隊 長 陸 軍 少 佐 宮 武 金 市
自 昭 和 二 年 六 月 八 日	

~577~

輸重兵才四九隊部隊船歴

輸重兵才四九隊隊長

大河原

定

年月日	概	詳
至 三 六 六	輸重兵才四九隊部隊並輸重兵才二十隊隊補充隊臨時動員下令	
自 六 六	才二中隊 才一小隊 (六月一八日)	才二中隊主力 (才一小隊欠) (六月二日)
至 七 五	才三中隊 才一、才二小隊 (七月十二日)	夫々龜山出務
自 七 三	才四次輸送部隊として 部隊主力 (才二小隊) に依り、釜山港出帆	
至 八 三	仏領印度支那海、カムラン港沖海域に於て、敵潜水艦の魚雷攻撃を受け遭難	
至 九 二	将校以下 九五名海没	
自 九 三	遭難部隊は、掌櫃仏領印度支那西貢に集結	
至 十 一	才二中隊 才一小隊 歩兵才一六八隊隊に配属 要南に向ふ	
自 十 五	拳闘艦隊に集結入編準備並に「ビザニローク」に「テーヘン」向の入編部隊の輸送及岳站設定業務に従事	
至 九 五	才二中隊主力「モールメン」到着	
自 九 六	「モールメン」附近の警備並に「ミヤワザレ」「フリーカイン」「モールメン」向の輸送業務に従事	

579

至	自	年月日	概	要
至	自	昭 五 十 三	ヲニ中隊、ヲ一少隊ヲマランミヨウレト於テ、歩兵ヲ一五三聯隊配属	
		至 一 一	ヲニ中隊を除き部隊は「バグール」へ「ヤウタン」に集結	
		至 一 一	断作戦に参加ヘ「バグール」附近警備	
		至 一 一	ヲ三中隊、ヲ一少隊を「トングール」に於テ、方面軍の指揮に入らしむ	
		至 一 一	集結自動車中隊、満成燃料、緊急輸送のため、「エナンギヤン」に向ふ	
		至 一 一	ヲ四九師団、自動車輸送班を編成、輸送に任ず	
		至 一 一	ヲ三中隊、ヲ一少隊、泉所屬復敵兵団直轄となり、「メークテラ」附近の戦斗	
		至 一 一	参加	
		至 一 一	自動車輸送班「メークテラ」附近の戦斗に参加	
		至 一 一	ヲニ中隊ヘ「ヲ一」ヲニ小隊欠「ヲバオグ」到着、「メークテラ」附近の戦	
		至 一 一	斗に参加	
		至 一 一	部隊主カ「ヤノン」県「シユダ」到着、「メークテラ」附近の戦斗に参加	
		至 一 一	ヲニ中隊、ヲ一少隊歩兵ヲ一六八聯隊の配属を解かれ、泉所屬に復敵部隊主	
		至 一 一	カ兵に「メークテラ」会戦に参加	
		至 一 一	断作戦参加、中將校以下七名戦死	

1582

自	至	自	至	自	至
四十	五三	六一	六二	六八	九八
克作戦に参加 転進周持校以下ニ五名戦死 生死不明者ニ五名	部隊主力ハオニ中隊 オニ小隊ケレトタトンレ到トタトンレ附近の築城隊征並に輸送業務に従事す	堅作戦に参加	終戦	トタトンレ奥トドインゼレ並にトセマトエレ附近に移駐同地に集結	宿营地移動のためトヤグーレ奥トバヤジレ到着 同地集結
				宿营地移動のため 同地出発 トシングラドンレ到着	オニ中隊をトングーレ オニ中隊をトバオグーレに添けんす
				宿营地移動のためトシングラドンレ出発	

歴代部隊名
陸軍大佐 大河原 定

~587~

2289

才四九師団兵器勤務隊部隊略歴
 才四九師団兵器勤務隊長 末嶋吉郎

年月日	概要
昭元 五三	臨時動員下令
六十	才二次動員完結
六三	大田中尉以下二名先発者として、釜山港出発
七四	主力発山出発
七五	「今ヤイナ丸」に依り、釜山出港出帆
七三	門司港着
七三	門司港出帆
八五	博多港入港
八十一	博多港出帆
八三	基隆入港
八三	基隆出港
八五	高雄港着
八六	高雄出港
九九	マニラ入港

~593~

年月日	概	要
昭五 十六	「ありびあ」丸にマニラ港出帆	
十六	「マニラ」西南方七十海城北緯四十五度東経十五度航行中、敵潜水艦の雷撃を受け(十二時三十分)	
十九	才ニ発日、雷撃を受け、将校以下五六名海没 遺難部隊掌握、マニラ港に集結	
至 五〇	末島中尉以下五六名、漏洩のため転入	
自 五〇	断作戦に参加 「キヤウタン」附近の警備、兵器資材輸送補給並に	
至 五三	兵器修理に従事	
自 五〇	「チャウタン」附近警備、兵器資材輸送補給並に、兵器修理に従事す	
至 三三	奇隊主力は、「メークテラ」附近の戦斗に参加のため、「キヤウタン」出帆	
自 三三	「ピンナマ果シユコダ」到着 「メークテラ」附近の戦斗に参加	
自 一一	艦作戦に参加中 兵四名戦死	
至 四九	克作戦に参加	
自 四一		
至 五三		
至 四十	部隊主力「タトン」到着 「タトン」附近警備 資材補給兵器修理に従事す	

~584~

2292

40 の 内: デルマ

自	六	監作戦に参加
至	六	
	八	終戦
	九	「タト」果ドインゼイし移駐 同地に集結
三	一	「タト」果ゼマトエに移動
	二	宿營地移動のため 「パグ」果パカジレに向ふ
	三	「パカジ」着 同地に集結
	四	「オ」三十三軍電信一九隊の指揮下に入る。メイクテラに移動のため「パカジ」
	四	出発 メイクテラに着
		部隊長名
		陸軍中尉 末島吉郎
		部隊事情精通者
		住所 奈良県山辺郡針ヶ利新村大字少倉八六一
		大 冊 号

~525~

2293

中四九師団衛生隊略歴

隊長 玉田 寛二

年月日	概	要
昭元 六 四	朝鮮ヲニ部隊に於ク、甲令陸甲ヲ五九号に依リ、勅員、彌茂、業務に従事	
七	担架ヲ一中隊長以下瀾旬に向い出給、戦傷一	
八	部隊主力瀾旬に向い出給、途中戦死一	
九	担架ヲ一中隊長以下、仏印「カムラン」島外に於テ、遭難戦死四、同確認四。	
十	尔後缺道輸送に依り入瀾	
十一	主カ「比島」マニラに於テ、諸作業に従事	
十二	担架ヲ一中隊長以下、策策国配属のため、プロトムに向い、ペグー迄	
十三	主カ 昭南着 入瀾	
十四	担架ヲ一中隊長以下、雲南省臨町附近の整備並に断作戦ヲ二期に参加（戦死四、戦傷一）	
十五	担架ヲ一中隊長以下、断作戦ヲ三期に参加、戦死一、戦傷五	
十六	担架ヲ一中隊長以下、部隊主カと合流、盤作戦に参加「メイクテラ」附近	
十七	の戦斗に於テ、戦死ニ九、同確認三、戦傷三六	

の 外
ビルマ

~588~

年月日	概	要
自三 至四	担架中隊長以下	才ニ次密作戦に参加 戦死ニ一 戦傷四 生死不明六
自四 至五	主力逸作戦に参加	戦進作戦に涉り 戦死ニ七 同確認ニ一 戦傷一五
自六 至七	主力堅作戦に参加	戦死一 戦傷四 終戦に至る
自八 至九	班長以下中隊長以下第集団と共ニ戦進	戦死六〇 戦傷一〇 生死不明ニ九
自九 至一〇	戦死確認ニ一	
自一〇 至一一	「タトニ」前進ゴム林に駐留	
自一一 至一二	「バプニ」道に於て、道路補修、作業に従事	
自一二 至一三	「ムトニ」に集結	
自一三 至一四	歴代部隊長名	
	少佐	玉田寛二

~581~

2295

年月日	概要
	<p>部隊事情精通者</p> <p>住 所</p> <p>兵庫県神戸市中央区楠町四丁目一三九番地</p> <p>現住所 大村市本小路町 六五 (昭三、四一現在)</p> <p>玉田 寛二</p> <p>熊本縣熊本市北新坪井町 一三四番地</p> <p>三山 素悟</p> <p>佐賀県佐賀市神野町 二二ノ一九</p> <p>杠 辰次</p>

~508~

2296

第四九師団第一野戦病院部隊略歴

年月日	概	要
昭和五三 六五	第四九師団臨時動員下令 野砲兵中隊八連隊（西部中隊五一部隊） 応召すは転属	福岡県久留米市
六八	久留米市牛田山練兵場に於て軍用検査 （総員二六〇名）	編成業務並教育、個人装備完成
六十	在朝鮮部隊人員朝鮮中隊ニ三部隊転属	朝鮮京城府龍山区
六七	内地編成部隊中隊出發（西部中隊五一部隊）	
六五	門司港出帆	
六三	釜山港上陸	
朝鮮中隊ニ三部隊到着中		
次動員完結		
六二	第二次動員完結（於、朝鮮中隊ニ三部隊 （総員二九〇名）	編成業務並教育衛生材料其の他諸 材料受領
六八	ビルマ進出のため、朝鮮中隊ニ三部隊	

15891~

2297

外 出 部

年 月 日	概	要
昭 天 六 三	<p>出港（二半部隊員一四五名） 釜山港に於て、輸送船守賀丸乗船（積 積数四五〇〇積） 釜山港出帆 門司港假泊 台湾高雄港着 陸軍衛生曹長 中野孝徳送一曹長 台湾高雄港着 陸軍衛生上等兵岡半一衛生兵長を命ず 比島マニラに着着 乗船港内假泊 マニラに港着 「ボルネオ」島「ミリ」港假泊 「ボルネオ」島「ミリ」港着 「ミンガポール」港上陸「ミン」がポー ルに南兵營着 一半部へ送員一四五名）釜山港出帆</p>	<p>釜山未崎棲疲所に於て、換装実施 早頭上陸水浴実施、船内狭隘と高 温なるため、喝熱並下痢患者発生 早頭上陸水浴並露營</p>
七 四	比島マニラに着着	早頭上陸水浴並露營
七 五	乗船港内假泊	
七 六	マニラに港着	
七 七	「ボルネオ」島「ミリ」港假泊	
七 八	「ボルネオ」島「ミリ」港着	
七 九	「ミンガポール」港上陸「ミン」がポー ルに南兵營着 一半部へ送員一四五名）釜山港出帆	部隊の半部を早頭に残置し、諸材 料の掲陸作業に従事

~590~

年月日	概	要
昭五 七、六	口号先発として、津田征生部見習士官 以下六名「シンガポール」出発	昭南南兵營駐留間に於てA型パラ ゾ多発教育並輸送討區諸材料の積車積 込作業
七、元	イ号先発として、小田征生部見習士官 以下六名「シンガポール」出発	昭南南兵營駐留間休養給与適切に 体力の恢復を計る
八、三	「シンガポール」南兵營出発、昭南駅 に於て乗車	
八、三	昭南駅出発	
八、三	泰緬国境通過	学校跡に宿泊防空施設実地兵站 給養
八、五	「ビルマ」国「ペグー」県「ペグー」 市考	防空その他対空施設並教育並給食設備 糧秣の兵站及「ペグー」農業振興会日 受領並購入
八、三	部隊の半部「ペグー」県驛跡に今宿 部隊炊事開始	ビルマ国「ペグー」県「ペグー」市字校並果屬跡
九、五	「ペグー」患者療養所開設 陸軍少佐 朝野明大任軍医中尉	
九、一		
九、一		
九、一		
九、一		
九、一		
九、一		
九、一		
九、一		
九、一		
九、一		
九、一		
九、一		
九、一		
九、一		

~591~

2299

年月日	概	要
昭五 一〇三	部隊主カ「チャウタン」レヘペグー市東 南オ約十二村ノ移駐	道路兩敵金宿舎附近の清掃封空施 設実施
一〇六	「チャウタン」野戦病院開設 一 半部アラビア丸ニマ輸送中比島マニ ラ沖ニマ敵潜水艦の雷撃を受け海没 オ四九師団兵器部より自動貨車一輛 を受領す	比マ國ペグー具モウタン「ペグー市東南オ」主戦 部隊長峯田少佐以下一八七名海没 (別紙) 於「チャウタン」
二〇九	一 半部神風丸ニマ輸送中所度比島マ ニラ沖ニマ敵潜水艦の雷撃に依り海没	加藤軍曹以下ニヤ名海没ハ甚久邇 軍医以下ニ四名、将四下七兵ニ 生存するのみ比島部に転属)
三二一	陸軍衛生曹長中野茅穂以下下士官兵の 任官進級(別紙)	
三三〇	陸軍兵長山田松吉同上等兵金澤寛浩 四九師団兵器勤務の隊配属	
三三五	陸軍衛生軍曹川口清春同位長上野家一	於「ペグー」駅並「ペグー」市東 オ「バゴダ」

~592~

<p>自 三九 八五</p>	<p>森方面軍才五遊撃隊転属 新部隊長 陸軍軍医少佐森正記着任 前作戦と呼称す</p>	<p>軍医分団研究会数回瀬備挺身射入 戦車肉攻教育実施 ペグー患者療養所収容患者延入員 三九五名</p>
<p>至 一三五</p>	<p>ペグー患者療養所才四九師 才四野戦 病院に引渡す</p>	<p>才兜師団才百六連隊才三大隊長 東大尉の指揮に依る</p>
<p>自 一六</p>	<p>コインダゴウレヘチャウタンノ宿舎東 南才約五科に陣地構築</p>	<p>才三九五科に陣地構築</p>
<p>至 二八</p>	<p>陸軍征住軍曹阿部正以下三名進級 陸 軍征生軍曹山本昌考給二等給</p>	<p>才三九五科に陣地構築</p>
<p>三 四</p>	<p>「チャウタン」野戦病院閉鎖（患者は 四九師回野戦に転送）</p>	<p>「チャウタン」野戦病院収容患者延入 員三九五名</p>
<p>三 五</p>	<p>メークテラ附近作戦参加のため、才 ヤウタン宿舎出程タワ駅より乗車</p>	<p>陸軍軍医中尉国武清以下十三名（ 患者）を残留</p>
<p>三 七</p>	<p>才ニウゴン駅着 才一回爆撃（人員材 料共に被害なし）</p>	<p>才ニウゴン駅着 才一回爆撃（人員材 料共に被害なし）</p>
<p>三 八</p>	<p>才ニウゴン港</p>	<p>才ニウゴン港</p>
<p>三 九</p>	<p>「エニ」駅着</p>	<p>敵機爆撃に依り「エニ」駅以北列車不通</p>

~523~

2301

年月日	概	要
昭三 三三	部隊主力徒歩にマコエニ出発	薬劑部並行尋人隊及び征生材料の
三五	コピンマナに着	大部、役中、中隊を残留す
三六	自動貨車に依りコピンマナに発回夜コ ヤメセンに着	防空ゴウ構築
三三	自動貨車に依りコヤメセンに発回夜コ シピンに着	パヤプン隊方六軒防空ゴウ其の他防空 施設備設準備
三三	陸軍征正部見習士官平田重成以下五名 軍医少尉任官	ビルマ国ヤメセン県シピン
三三	コシピンに野戦病院開設	ビルマ国ヤメセン県シピン
三三	工ニ残留中藤川葉削中尉以下征生材料 携行本隊到着	コシピンに野戦病院収容者乗員五三名 (主として 戦傷患者)
自三 四九	コシピンに野戦病院開設	書類征生材料被服の大部を焼却 又は埋没
至 四〇	敵戦車後方(南才約二軒)に突入部隊 は逃者同伴東方に迂回駆進開始 陸軍 征生伍長 藤陵薫才三三軍司令部に建	シピン東方約二軒

574

2302

年月日	概	要
昭三 四三	<p>略に行き、ま帰隊せず テンゴン(ハヤメゼン東オミ料通過)</p>	<p>前園征生中尉ヤセに割り、四九師団司令部と連絡をとる</p>
四六	<p>マンダレー街道上に、四九師団輜四九連の自動車に依り、患者を約百三三兵、站前院ビンマナ患者、台所に輸送す ビンマナ着</p>	<p>四九師司令部と連絡をとる</p>
四〇	<p>敵軍車ビンマナ突入部隊はビンマナ迄、泉街道を転進</p>	<p>四九師司令部と連絡をとる</p>
四三	<p>陸軍征生一等兵上野光成行オ不明 陸軍一等兵松林良人戦死(「エニ」残留行李部隊)</p>	<p>「スワ」エダッシュ、河渡河直前「オクトハイ」東北四料「シ」タン、河渡河時敵の射撃に依る</p>
四三	<p>師団付梯団編成を以、トングール東オ十哩地奥出発</p>	<p>甲部「イニカボウ」</p>
五二六	<p>陸軍濠工曹長道田精一大腸炎の疑にマ後送</p>	<p>甲部「イニカボウ」</p>
五五	<p>部隊は「ダト」東北十三料ゴム林宿</p>	<p>甲部「イニカボウ」</p>

~595v

年月日	概	要
五月 四日	<p>合到着</p> <p>ナウチヤンイワガレ野戦病院開設</p> <p>國武軍尉中尉以下ナウチヤンに残留部隊並エニ残留の行季部隊本隊到着</p> <p>克作戦と呼称す</p>	<p>ビルマ國タトニ県ドウインゼー村</p> <p>ナウチヤンイワガレゴム林</p>
至		
五月		
六一	<p>陸軍兵長白岩鐵男以下兵の任官進級</p> <p>(別紙)</p>	
六六	<p>陸軍軍医少尉小野龍太郎背腫波性麻疹</p> <p>に依り後送</p>	
六五	<p>陸軍軍医少尉津田穂夫(病名未定)</p> <p>後送</p>	
七五	<p>医中尉渡辺昇(490 1064) 征見士古賀茂樹</p> <p>(490 5) 征伍長山本三平(490 60) 転入</p> <p>医中尉桐寛人(490 1684) 征伍長波多江正</p> <p>季(490 5) 転進</p>	

596

2304

七〇〇	陸軍征正少尉佐藤守(490)転入
八一	陸軍征生伍長坂田善四郎以下下士官兵 任官進級(別添)
八四	ポツダム宣言受諾の認書授発
八五	諸書類他人の日記等焼却
八三〇	陸軍征生中尉前園拾遺以下同僚の任官 進級
八三二	陸軍軍医少尉平田重成以下二〇名 四 九師「キンムンダゴン」に野戦係けん
八三三	ビルマ方面軍降伏文書調印式
九一	陸軍兵長田中勝記以下八名任官(別添) 牛車(五輛)役牛(一〇頭)連合軍に 引渡
九五	陸軍一率兵門見近吉四九師野戦係けん ん中「アメリバ」性赤痢に亡 連合軍の命に依り 通林部隊号使用 止
九二	
九三	四九師「キンムンダゴン」に野戦係けん

於
四九師キンムンダゴン野戦係

年 日	概	要
九三	<p>ん中、平田少尉以下二〇名本隊復讐 武装解除</p>	
九五	<p>才四九師団ヲトシ東北六十二并コ ム林業結(約五千名)</p>	<p>タトニ縣ドウイニザ一村ナウケヤ ニイワガレゴム林環境清掃</p>
九六	<p>陸軍一將兵安藤金岩 四九師自動車集 成中隊に派けん中絶痛 才百六站病院 に後送マリアにマ死亡</p>	<p>才百六兵站病院アノウイニ患者 療養所</p>
九七	<p>陸軍征生軍曹森永繁太郎西本稔祐二等 給</p>	<p>收容患者四百名突破(主としてマラ リヤ)並にアメーバ性赤痢</p>
一〇三	<p>四九師四野赤より、天野軍医少尉以下 四〇名当隊業務援助</p>	<p>運動講座演芸実地給養の低下水不 足被服不足</p>
一〇三	<p>陸軍征生大尉永倉三郎(490)当隊兼 勤</p>	
二八	<p>陸軍征生兵長平島治所(490)転出</p>	
三一	<p>陸軍征生軍曹前野省吾以下下士官の進 動</p>	

~570~

2306

年月日	概	要
三二四	<p>級任官(別紙)</p> <p>陸軍兵長長谷川秀吉四九師に野戦に 派けん中絶後、才右六兵站病院に後送 「マリアリ」にマ死後</p> <p>当隊業務援助中、天野軍医少尉以下四〇 名(490名)本隊復讐</p> <p>四九師幹部(484名、490名、491名)バブン附 迎受軍務役に致る</p> <p>四九師防給山田軍医少尉以下二〇当隊 業務援助</p> <p>陸軍衛生曹長兼定輝雄結二等給 同附 部正給二等給</p> <p>渡辺軍医大尉以下二八名「ゼマトエ」 先送</p>	<p>於「ウエガ」に才右六兵站病院</p>
一三	<p>「ゼマトエ」に於マ、才三一師団才一 野戦病院より、患者引継(四二名)</p>	<p>才三一師団ビルマ団「モールメン」 果「ムドン」に移駐す</p>
一四	<p>「ノウチヤン」イワガレ、野戦病院用銀</p>	<p>「ノウチヤン」イワガレ、野戦病院収容患者延大費三万五千元</p>

577

年 月 日	概	要
一三	部隊主カ「ゼマトエ」移駐「ゼマト」野戦病院開設	患者並に衛生材料其の他諸材料は自働貨車並に牛車に依り輸送
一三	四九師主カ「ゼマトエ」移駐	ビルマ國タトン縣ゼマトエ材
二二	カニ一師団カニ野戦病院より患者引継(三一名)	於「ゼマトエ」
二五	当該業務援助中 四九師附給山田軍医少尉以下二名本隊復隊	
二六	四九師主カビルマ國ベグー県パロジ一移駐 当隊長(陸軍軍少佐 森 正記)	ゼマトエ残留部隊四九師(野戦病
二二	「ゼマトエ」地区司令官となる カニ三軍司令部ビルマ國ベグー県パカジ一移駐	同歩一五二連(一部) 砲一九連(一部) 独ニ五々中(一部)
三三	部隊長陸軍軍医少佐 森 正記 陸軍に召致なる	陸軍軍医大尉國武満部隊長代理となる
三三	陸軍衛生曹長阿部正 阿進田清一 給 等給 陸軍衛生軍曹 山本昌彦 給一等	

600

四三	古賀軍医少尉以下二〇名兵舎建築のため「タトン」飛行場に先給す 部隊主カタトン新兵舎移駐へ人員諸材料自動車輸送)	建築材料の大部分は「ゼマトエ」の兵舎の材料使用 渡辺軍医大尉以下四〇名「ゼマトエ」残留野戦病院の業務続行
四〇	駐屯地司令官、業務を独工四連長、坂大佐に引渡す	
五一	陸軍上等兵、黒田隆次下十五名進級へ別派)	
五二	部隊エカビルマ風モートル車ムドンキャンプ移駐	
五四	「ゼマトエ」野戦病院用鐵へ建着付一〇六、兵添一八兵添に転進)	人員材料鉄道輸送兵舎建築、環境の清掃、復員業務、薪収集 ゼマトエ野戦病院収容患者、近人員、三二一名
五八	ムドン機表所に於て、機表実施	
五三〇	陸軍上等兵、石原夏成(半真出身者)ラングーン集結のため出發	
六一	陸軍従生上等兵、中山重次以下十三名進級(別派)	
六三〇	陸軍一等兵、本末勝以下六名進級(別派)	

外
の
ヒルマ

年月日	職	受
<p>六天 モールメン総 大竹上陸 復原完結 七二四</p>	<p>陸軍兵長 岩川武男 オ四九師団団長 オ四九連隊より転入</p>	
	<p>歴代部隊長名 軍医少佐 岸田 伝 四 郎 同 森 正 昭</p>	
	<p>部隊事情精通者 任 前 熊本県熊本市健康町九〇。 水菱園社宅オ六隣保三九号</p>	
	<p>福岡県八女郡八幡村大字園武五六九 衛生大尉 前 園 拾 藏</p>	
	<p>大坂市旭区新森小路中二丁目八六 薬劑大尉 藤 川 隆</p>	

6025

年月日	概	要
	<p>東京都麹町区飯田町三丁目一三 主計少尉 押田朝吉</p> <p>三重県北牟婁郡三野瀬村大字三浦三九三 征生准尉 中野芳徳</p> <p>山口県宇部市神之山厚生町五丁目 征生准尉 谷口智</p> <p>長崎県壱岐郡本町大字可須仲触七八三 征生曹長 山本昌彦</p> <p>福岡県粕尾郡須恵村 陸軍軍曹 大石敏夫</p> <p>岡山県知奴郡伊里村大字穂浪三〇一二 征生伍長 島津肇</p> <p>長崎県大村市深田町一丁目一四六 征生伍長 道添芳雄</p> <p>長崎県下県郡葦原町大字久田道一五七六 陸軍伍長 井上義雄</p>	

2603~

2311